

おおいた国際交流プラザ

OITA INTERNATIONAL PLAZA

La Estación

vol. **33**
2011

ラ・エスタシオン

スペイン語で、局や駅の意。当誌が県内の国際交流・協力情報の発信地として、広く親しんでいただけるようお願いを込めてつけました。

寄稿 国際交流は何のためにするのか

第3回「ドイツにおける融和の成功」……1-2

自治体の紹介 日田市……3

団体の紹介 NPO法人 九州通訳・ガイド協会 大分県支部……3

国際的に活躍している人々の紹介……4

Madhav Jaisi氏

JICAデスク大分からのお知らせ「体験から学ぶ」……4

Event Calendar……5-6

私たちの声を聞いてください!……7

ニコール フリン氏

Information……7

イベントの報告……7

(財)大分県文化スポーツ振興財団

「ネパール・ヒマラヤの麓、ナウリコット村で昨年末に撮影した写真」

第3回

「ドイツにおける 融和の成功」

今年度は「国際交流は何のために行うか」と題して、様々な視点から国際交流の意義と目標について解説していただきます。寄稿者は、国際関係論、日本学や歴史学等、色々な分野の専門家と協力する予定です。今回は、ドイツ、ハンブルグ大学アジア・アフリカ研究所日本学科教授 フォーグト・ガブリエレ先生と同研究所日本学修士課程一年生 ヨルケ・リーザ氏の共同執筆で、数十年前から多文化共生推進課題に取り組むドイツの事例の一つを紹介します。

日当たりのいい日曜日の午後。ハンブルグに近いヴェーデル市。カラフルな公民館の中にインチェス・バリシュとその生徒達が座っています。バリシュも毎週日曜日にここに来る子供達もヴェーデル出身でトルコ系の人たちです。毎週日曜日の午後、バリシュと二人のボランティアが進んでその子供達の宿題を手伝っています。このプロジェクトのアイデアを考え付いたのはヴェーデル市のトルコ系両親の会の幹部の一人、バリシュのお父さんでした。お父さんはトルコ系の子供たちに放課後も学校の勉強を助けてあげる必要があると気付きましたが、最初に導入した家庭教師の補習はあまり評判がよくなかったのです。そこで、息子のバリシュが2年前にそのプロジェクトを引き取り、自分で教え、その子供達の手伝いをはじめたのです。今では毎週日曜日に町中から25人もの子供達が来て、宿題を見てもらっています。そしてバリシュは二人の助手に手伝ってもらえるようになりました。「私たちはどんな科目でも見てあげます」とバリシュは言います。子供達の年齢も様々で、小学生から中学二年生まで色々な学年の子供達がここに来ています。



宿題の手伝い中 ©Lisa Jörke

▶ 宿題とドイツ語の手伝い

一緒に勉強している間はドイツ語しか話してはいけないというルールをバリシュは大切にしています。「ドイツ語しか話さないことはこのルールです。多くの子供達は家ではトルコ語しか話さないのも、ドイツ語の学校生活とトルコ語の家庭生活との移行が時として難しいのです。」ドイツ語での会話を通じて彼は子供の弱点を見つけることも簡単になります。なぜならドイツ語能力と学校の成績の間には明らかな関係があるからです。「ここで問題なくドイツ語を話せる子供達は学校の成績もいいのです。」とバリシュ。同時に子供に練習帳のきれいな扱い方や集中力と規律正しい勉強の仕方、子供たちの争いを平和的に解決する方法を教えます。バリシュと二人の助手は子供に対して先生だけでなく、兄や姉のような役割も果たします。そして生徒はバリシュ達に対して尊敬の念を抱いています。全体の話し合いの場でそれは明らかになります。子供達は宿題の補習を授業として感じ取っていますが、バリシュ達の説明のほうが学校の説明より理解できるし、一人より一緒に宿題をするほうが楽しいのです。

▶ 両親への支援

しかしバリシュ達によって手伝ってもらうのは子供達だけではなくありません。ドイツ語がうまく話せない両親やドイツの学校制度をよく知らない両親などもここに相談に来ます。バリシュのお父さんの説明によるとトルコの学校では躰などの教育が全面に出されますが、ドイツの学校では知識教育が大切にされています。「だから多くの両親は学校での必要な準備を怠るのです。」とバリシュ。この助手は定期的に両親と会い、小学校卒業後どの学校に進めばよいかなどの学校に関する進路相談などをします。ドイツでは小学校卒業後、生徒は進学できる学校の種類が三つあります。アビトゥア（大学入学資格）を得て大学に入学できるギムナジウムか、職業教育が可能になる実科学校か本科学校です。進学は両親と子供の意に任されていますが、両親の会は重要問題を解決する援助をします。例えば宿題グループはトルコ人家族と学校の仲介役となり、両親のドイツの役所に対する恐怖心をやわらげることができ

▶ 融和に成功したバリシュ

進学のことならバリシュは自分の経験から話すことが出来ます。ヴェーデル市でアビトゥアを取ってから医学を勉強し始めました。そしてドイツのもっとも有名な秀才のための奨学生に選ばれました。移民を背景に持つ大学生としてバリシュは子供たちの模範となりました。差別を身をもって体験したことはありませんが、ギムナジウムの初期には成績の付け方がすこし不公平であったように思えました。にもかかわらずバリシュの両親は学校行事に積極的にに関わり、息子を支えました。アビトゥアを取るとき、バリシュは先生に奨学生に推薦してもらいました。推薦することで先生はバリシュの成績だけでなく、移民者の子供としてギムナジウムで自己主張した事実を評価したのです。バリシュはそのことを先生にとっても感謝しています。しかし、友達の通っている本科学校を訪問したとき、外国人の子供が十分に支援してもらえない学校もあることが分かりました。それも町の子供達を助けたい理由の一つとなりました。



ヴェーデル市のバリシュ（左）、生徒、助手
©Lisa Jörke

▶ ヴェーデルのトルコ人両親の会

宿題の補習やトルコ人両親の会の他のプロジェクトはヴェーデル市からも援助を受けています。会の建物は市から寄贈され、毎年両親の会は寄付も受けています。数日前に市長がこの会を訪れました。ただ、ほかの市民との繋がりは簡単ではありません。「会の頼みは自分だけです。」とバリシュ。しかし、すべての市民との接点を見つけ出せる兆しも見えています。例えば国際子供フェスティバルです。このフェスティバルは毎年4月に行われ、あらゆる国の人々の間で好評です。こういう行事は外国人融和にとっても町の異文化間共生のためにも不可欠です。

▶ ドイツへの移民の歴史

今では融和はドイツ社会における重要なテーマとなりました。50年代から70年代にわたって地中海諸国から、そしてベルリンの壁崩壊後は東欧からの移民労働者が数多くドイツに渡ってきました。それ以来、ドイツは世界でもっとも顕著な移民国となりました。トルコ人社会は其中で最大の移民集団を形成しています。しかし移民の融和政策は遅々として進まず、今なお移民の背景を持つ子どもたちは教育の機会がドイツ人より少ないと言えます。まさにこの問題の対策として、バリシュのお父さんが宿題の補習を始めたのです。彼はヴェーデル市のトルコ系の子供たちをバリシュのようにギムナジウムに行かせ、アビトゥアを取らせてあげたかったのです。「少なくとも年に一人、子供にアビトゥアを取ってほしい」という目標をバリシュは立てています。移民の背景を持つ子どもたちは優秀な成績で卒業することで、将来の仕事を自分で選び、社会の一員として認められることができるのです。

▶ 外国人市民の功績

ですから、ドイツの政府は近年移民家庭の子供のドイツ語能力を改善し、そうしてその子供達の教育のチャンスを高めようとしています。しかし、外国人融和は今なお多くの問題を残しています。そこでヴェーデルみたいな小さい町でこそバリシュとのお父さんのような人々のイニシアティブが多文化共生にとって不可欠なのです。しかし、長期的に融和を進めるには移民者側の貢献だけでは足りません。ドイツ人市民も異文化に対して心を開き、移民に対する偏見を捨てなければいけません。移民を自分の生活環境の中に迎え、認めなければいけません。こういう開放性をドイツ側に望みつつ、バリシュは融和が長い時間を要する過程だと理解しています。「その道こそが目標だ」と笑いながらバリシュ。それはドイツやトルコの文化だけでなく、どの文化にも言えることではないでしょうか。



Profile

フォーグト・ガブリエレ (Gabriele Vogt)

ハンブルグ大学アジア・アフリカ研究所日本学科教授、「外国人の移住と日本の労働市場」研究プロジェクト・マネージャー、2009年まで東京にてドイツ・日本研究所副所長、上智大学国際教養学部で非常勤講師 写真：©UHH, RRZMCC, Arvid Mentz



Profile

ヨルケ・リーザ (Lisa Jörke)

ハンブルグ大学アジア・アフリカ研究所日本学修士課程一年生、「日本と国際政治」専攻 写真：©privat

日田市における国際交流について

日田市役所 企画課 国際交流係 川村礼子

日田市は、北部九州のほぼ真ん中に位置し、江戸時代には幕府の直轄地「天領」として西国筋郡代が置かれるなど、九州の政治・経済・文化の中心地として繁栄し、当時の歴史的な町並みや伝統文化が、今なお脈々と受け継がれています。

また、筑後川の源をなす地域として、天然の宝庫から生まれ育つ水は、山紫水明の日田の象徴です。

早速、国際交流員の活動について紹介します。現在、日田市にはニュージーランドと中国から2名の国際交流員が勤務しており、中国語入門講座や子ども英語教室、テレビ放送による市民向け英会話講座など多数の語学講座を開催しています。

また、イースターパーティやハロウィンパーティ、餃子づくり教室などのさまざまなイベントを企画し、国際交流に努めています。今後は、地域のイベントや会合に出張し、いろんな方々とのふれあいを通して、交流を深めていく予定です。

また、昨年から「日田市青年海外派遣事業」を開始しました。これは、日田市を担う青年をヨーロッパに派遣し、異文化を実体験することで国際化に対応した人材の育成や友好交流を目的としているものです。参加者自身がテーマを決め、訪問した

国で研修をするとともにその国の人々との交流を図っています。昨年は、4グループ11名の方がフランス・スペインなどを訪問しています。

その他にも、立命館アジア太平洋大学（APU）の学生との交流キャンプを前津江町ハイランドパークで実施しています。小学5、6年生を対象に1泊2日での日程で日田市のALTと一緒に参加しました。外国のゲーム等を楽しみながら、いろんな国の風習や文化、言語を学び、その中でコミュニケーション能力を身につけ、また異文化への理解を深めています。

これからも、これらの活動を通して、様々な交流の機会や学習の場をつくり、市民に身近なところから、楽しく国際交流を推進していきます。



8月3・4日国際交流子どもキャンプ



大分の国際交流団体の紹介

NPO法人 九州通訳・ガイド協会 大分県支部 (Kyushu Interpreters & Licensed Guides Association)

日本で唯一の語学国家試験である国交省主催 通訳案内業試験に合格したプロのガイドをはじめとし、語学力、幅広い知識、鋭敏な国際感覚を持つ様々な経歴の会員から成っています。学習会、研修会などを主催して、語学に従事する人材の育成を行い、国や地域の国際交流の促進に寄与することを主な目的としています。（設立は1997年11月）

〈今年度の主な活動〉

- *通訳案内士新人研修
- *新人のための実地研修ツアー
- *通訳案内士国家試験受験コース
- *通訳案内士試験「英語二次試験対策セミナー」
- *日本文化シリーズ（坐禅体験・小笠原礼法・博多の芸妓）
- *バス研修ツアーなど

〈大分支部協会員としての活動〉

私自身、プロとしてのデビューは2002FIFAワールドカップサッカーの前年、イラク派兵のアメリカ合衆国海兵隊員の別府地獄・臼杵石仏へのアテンドでした。駐屯地へ戻るバスの中、恋人や家族の名前を漢字でどうかのかと聞かれ、持っていたメモ用紙に若き兵士全員分の答えを一人ひとり書いて渡すと、とても喜ばれたのが印象的でした。

会員数：135名（協会全体／平成23年4月現在）
理事長：町 孝（JR九州高速船舶代表取締役）
大分県グループリーダー：徳谷 晃一
（大分県立爽風館高校教育企画部教諭）

また、大分EU協会からの依頼を受け2008年6月、駐日欧州委員会代表部から来県したシル

ビア・コフラー参事官兼広報部長の『EU欧州連合拡大の将来像～アイルランドにおけるリスボン条約批准の可否をめぐって～』という講演の逐次通訳をトキハ会館でしました。大分EU協会会長（羽野忠大分大学長）からお礼のメールが届いたのを覚えています。

現在、外国人犯罪被害にかかる大分地方検察庁の捜査通訳への協力をしております。事案発生の都度、警察からの送致書をもとに検事と共に被疑者の取調べを行い、弁解録取や供述調書等の作成を助けています。

KILGAへの入会、講座のお申込み、ツアーの参加、その他お問合せは徳谷（☎097-547-7700）が協会（下記）までどうぞ。
福岡市博多区博多駅東1-12-23 JR九州1号ビル3階
電話：092-433-0183 HP：http://www.tsuyaku-guide.jp/



通訳ガイド試験講習会



日本文化研修会（英語で茶道を学ぶ）

人物の紹介 ～国際的に活躍している人々の紹介～

インドカレーが大好きな僕が、初めて「夢や」を訪れた時、「場所が分かるかなあ」とちょっと心配したが、トキハインダストリー三重店の向かい側なので、分かりやすかった。店内に入ると、左側がカウンター、右側が個室、まるで居酒屋スタイル。そして笑顔の店長さんとスタッフ達。

Jaisiさんは、ネパールのバグルングという町の出身で、若いころから調理師を目指していた。学校を卒業後、インドで7年間調理のことを勉強した。それから3年間、ドバイのレストランで働いた。

日本には4年前に来日し、いろいろな場所で仕事をしたが、結局大分に来て2010年2月1日豊後大野市三重町で「夢や」を開いた。「一人ではなく、たくさんの友達と力を合わせてきたので、順調でした」とJaisiさん。一番難しかったのは、日本語を身につけることだったと。田舎の小さい地域でインド料理屋さんというのは珍しいので、なぜ三重町に店を開いたのか聞いてみると、「人口が少ないけど、田舎ではイ



「夢や」の美味しいインドカレー

勇気とビジョンを持って、田舎で インドカレー屋を開いたJaisiさん。

今回は「夢や」の店長さんを紹介します。



右：Madhav Jaisiさん

ンドカレー屋が少ない。三重の方々にも是非ネパールとインド料理の味を覚えてもらいたい」と。人口が少なくても、お客さんが少ない訳ではない。近くの方や、大分市や竹田市など、ちょっと遠くからいらっしゃる方で、「夢や」の常連客やファン達がどんどん増えてきている。

それはなぜかというと、確かなるカレーの美味しさのおかげ。リッチなチキンカレーでも、あっさりした豆カレーでも、上品な味をフワフワなナンに合わせていただくと、まるで天国のようである。

Jaisiさんは、大分が大好きだと。自然の豊かさ心地いい静けさ。日本料理は好きかと聞いてみると、牛肉はもともと食べられないし、寿司は苦手だそう。でも、うどんやラーメンなどの麺類が大好きだと。これからも出来るだけ長くお店を続け、将来は多くの支店を開きたいと。Jaisiさん、頑張ってください。

取材：グリュツマハー・ゼンケ

「夢や」

インド料理 / 居酒屋

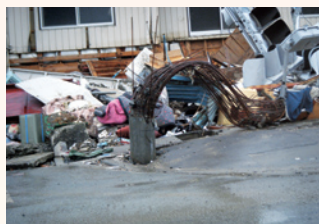
大分県豊後大野市三重町市場426-2-1F

三重町駅から577m

TEL:0974-22-7037

営業時間：11:00～15:00 17:00～23:00

JICA デスク大分 からのお知らせ



鉄骨だけになった柱

『体験から学ぶ』

私の青年海外協力隊体験は、今から20年ほど昔なのですが、振り返って思う時、現地でのカルチャーショックより、帰国後の逆カルチャーショックの方が

強く思い出されます。

生まれ育った祖国に帰国したはずなのに、自分自身の価値観や視点が変わってしまった為、何か違和感を感じてしまう。…こうした点で、共感してくれるOBやOGも多いのではないのでしょうか？

3月11日に発生した東日本大震災に対し、4月下旬にボランティア活動に向かいました。それも協力隊体験や、阪神大震災での被災地体験などの下地があり、メディアが伝えられ

今回の『JICAデスク大分からのお知らせ』では、ニジェールで電気工事に携わる青年海外協力隊員として活動された石黒孝一さんが東日本震災支援に出向かれた想いをお届けします。また、JICA九州では、大分市と共同主催で『おおいた国際協力啓発月間』を開催します。10月いっぱい「国際協力」について知る・考えるイベントが大分市内で実施されます。詳しくは、大分市国際交流Web (<http://oita-kokusai.jp/>) をご覧ください。

ない被災地の現実やニーズがある事を、体験的に知っていた。…そうした事も大きく影響したと思います。

体験により、人間は独自の世界を築き上げて行きます。それが体験学習であり、価値観となり、文化にも育つのではないのでしょうか。世代、地域、集団などによって文化が異なってしまうのは、共有する体験や歴史の違いから来るものだ。…とも考えられます。

自分と周囲の人達との違いを感じ、孤独感を覚える時もあります。…しかしそれが個性であり、自分らしさであると考えられる時、勇気を持って行動出来る気がします。

人類は一体何処に向かっているのでしょうか？私達は、何が出来るのでしょうか？…我々一人一人は、非力で欠点を持った小さな人間に過ぎませんが、そうした壮大な視点を見失う事なく、謎と矛盾に満ちた現実の世界を生きてゆきたいものだと思います。



国際協力推進員の川崎(かわさき)までいつでもどうぞ

〒870-0029 大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター地下1階 国際交流プラザ内
TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052 E-mail: jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp



よりよい明日を 世界の人々と

OCT 10 NOV 11

プラザのカウンセリング・各相談室のご案内

カウンセリング

場所：iichiko総合文化センター B1F おおいた国際交流プラザ
お問合せ先：TEL：097-533-4021 FAX：097-533-4052
E-mail：in@emo.or.jp

中国語無料相談

毎週火曜日と木曜日
時間：火曜日：13：00～16：00
木曜日：10：00～13：00
会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
相談員：崔 文玉（ツイ・ウェンユウ）
相談料：無料
※県内在住中国語圏の方のための相談室です。

タガログ語無料相談

毎月第1土曜日と第3火曜日
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
申し込み：不要 相談料：無料
相談員：吉武ロドラ（大分県フィリピン友好協会 会長）
※悩み事を抱えている方、タガログ語で気兼ねなく話をしたい方はプラザにお越しください。

入国・在留国籍手続無料相談

毎月第1日曜日
主催：ライフサポート大分
時間：13：00～16：00
会場：国際交流プラザ
相談料：無料 予約：必要
対応言語：日本語・英語
※主として法律相談ですが、それ以外の内容でもお困りの場合はご来館ください。また、相談内容が外にもれることはありません。お知り合いの外国籍の方がトラブルや悩みを抱えている場合には、その方にぜひお伝えください。外国の方とのかわりの中でお悩みの方の相談も受け付けます。

在住外国人のための無料相談

毎月第3水曜日
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
※ただし、日本語、英語以外による相談は、通訳手配のため、2日前までに要予約。
相談員：伊藤精（行政書士）
相談料：無料
※県内在住外国人のための相談室です。

OCT

1日（土）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

2日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
主催：ライフサポート大分

9日（日）国際理解講座 “世界がもし100人の村だったら”

メールで広がった『世界がもし100人の村だったら』を使い、世界の格差や多様性を実際に五感を使って体験できる講座を開催いたします。お子様からお年寄りまで、ゲーム感覚で楽しみながら世界や地球の現状を学べるイベントです。
ファシリテーター：大分県立芸術文化短期大学 国際文化学科
准教授 玉井 昇

時間：15：30～17：30
場所：コンパルホール3F《300会議室》
予約：必要（定員に満たない場合は当日参加可）
参加費：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：in@emo.or.jp

15日（土）外国文化理解講座 ～フランスの美術館～

内容：予約不要・受講料無料で、どなたでも気軽に外国の文化を学べる外国文化理解講座。今年度は、中国、韓国、フランスの講座を開催します。大分にいながらにして、それぞれの国の文化に触れてみませんか？各テーマに関連したワンフレーズレッスンなどもあり、外国の文化と言語を学びながら、一緒に国際交流をしましょう！！

講師：テスニエ・アンブル（仏）
時間：14：30～16：00
場所：iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】
予約：不要 受講料：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：in@emo.or.jp

18日（火）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

19日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

22日（土）日本語deトーク

国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月1回、土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか？

テーマ：「秋の季節」
時間：13：00～14：30
場所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】
定員：10名（先着順）※予約必要 参加費：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：soenke@emo.or.jp

28日（金）LUNCH WITH US?

別府市では、市内在住、留学生のご家族、外国人家族（ご主人、若しくは奥様が外国人であるご家族も含む）等を対象に、簡単な家庭料理サークルを開催します。美味しいお料理を囲んで、アットホームな雰囲気の中で、楽しくおしゃべりしませんか？

時間：11：00～14：00
場所：婦人会館「なでしこ」
参加費：500円 定員：20人
主催：別府市役所文化国際課
TEL：0977-21-6133 E-mail：int-ma@city.bepu.oita.jp

NOV



5日(土) タガログ語無料相談

時 間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ



6日(日) 入国・在留国籍手続無料相談(毎月第1日曜日)

時 間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

主 催：ライフサポート大分



15日(火) タガログ語無料相談

時 間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ



16日(水) 在住外国人のための無料相談(毎月第3水曜日)

時 間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ



18日(金) LUNCH WITH US?

別府市では、市内在住、留学生のご家族、外国人家族(ご主人、若しくは奥様が外国人であるご家族も含む)等を対象に、簡単な家庭料理サークルを開催します。美味しいお料理を囲んで、アットホームな雰囲気の中で、楽しくおしゃべりしませんか?

時 間：11：00～14：00

場 所：婦人会館「なでしこ」

参加費：500円

定 員：20人

主 催：別府市役所文化国際課

TEL：0977-21-6133 E-mail：int-ma@city.beppu.oita.jp



23日(水・祝) 国際交流フェア

このイベントはおおいた国際交流プラザのメイン・イベントです。外国籍の方々や各団体がパフォーマンス等を通して様々な異文化を紹介します。一方、外国籍の方々はワークショップで日本文化を体験することもできます。そして、国際交流・国際協力団体のブース展示でそれぞれの活動を知り、色々な面白い人に会うことができます。国際交流、国際協力、多文化等…発見できる多様なイベントです。

時 間：11：00～15：00

場 所：iichiko総合文化センター アトリウム 県民ギャラリー

入場無料

TEL：097-533-4021 E-mail：soenke@emo.or.jp



26日(土) 日本語deトーク

国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月1回、土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?

テーマ：「大衆文化」

時 間：13：00～14：30

場 所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】

定 員：10名(先着順)※予約必要 参加費：無料

TEL：097-533-4021 E-mail：soenke@emo.or.jp

国際交流プラザのホームページがリニューアルしました!

全体的に見やすくなって、情報誌や各種申込用紙のダウンロードが可能になったほか、みなさんにもっと国際交流プラザを知ってもらい、より親しみを持ってもらうため、新しくブログも始めています!

ぜひ一度HPをチェックしてみてくださいね!



日本語教室紹介

あいうえお CLUB

場 所：アイネス(大分市)

日 時：毎週火・金 10：20～11：50

連絡先：090-8353-2485 宮瀬

場 所：コンパルホール(大分市)

日 時：毎週木 18：30～20：00

連絡先：097-532-5940 加藤

場 所：別府国際交流プラザ(別府市)

日 時：毎週火 10：30～12：00

連絡先：0977-21-4922 志賀

さくら日本語教室

場 所：大分大学国際交流会館(大分市)

日 時：毎週月 10：15～12：00

連絡先：090-7866-2486 大橋

ひまわり

場 所：明治明野公民館(大分市)

日 時：毎週水 14：00～16：00

連絡先：097-527-2614 深田

場 所：鶴崎公民館(大分市)

日 時：毎週土 10：00～12：00

連絡先：097-527-2614 深田

場 所：穂田公民館(大分市)

日 時：毎週水 10：00～12：00

連絡先：097-527-2614 深田

日本語楽々トーク!

場 所：別府市役所(別府市)

日 時：毎週火 14：00～15：30

連絡先：0977-21-6133 神

別府国際交流プラザ

場所：別府外国人観光案内所(別府市)

日 時：毎週火 13：00～16：00・毎週土 13：00～17：00

連絡先：0977-23-1119 宮武

にほんごきょうしつ

場 所：(株)野田建工本社(大分市)

日 時：毎週水 10：10～11：40

連絡先：090-4580-9550 野田

※その他、個人の都合に合わせてレッスン可能。



わたしたちの声を聞いてください!

「日本文化の体験」

ニコール フリン

初めまして。国際交流員のニコール・フリンです。7月末から大分県国際政策課で勤めはじめ、9月からはときどき大分国際交流プラザでも、働くことになります。

私はオーストラリアからまいりました。向こうでは、多くの高校といくつかの小学校で生徒達が外国語を勉強する機会があります。そのため、私は12歳から日本語を勉強してきました。今まで日本語以外、イタリア語とスペイン語、または少しドイツ語と中国語を勉強したことがありますが、日本語が一番楽しかったです。なぜかという、オーストラリア人の立場から日本を見ると、とても歴史が深く、伝統文化のある国だからです。もちろん、日本はアニメと漫画が世界的にも有名ですが、日本の伝統文化に関心のある人の方が多いのではないかと私は思います。

私が高校生のとき、日本語の先生(日本人)がクラスに書道の道具を持ってきて、習字の基本を教えてくださいました。その日から書道に興味を持つようになりました。そして2007年に日本の高校へ留学することができました。学校の書道部に入り、毎週金曜日の放課後書道部の皆さんと一緒に練習していました。冷暖房のない教室で習字をしていたため、夏の暑さと冬の寒さがきつかったですが、部員の皆さんと仲良くなり、飽きたことは一度もなかったです。10ヶ月間習字を習ったことは、私にとってとても貴重な経験になりました。それに、書道部を通じて正座もできるようになりました。

留学が終わって帰国しても、日本語の勉強を続けてきました。すると2009年にまた留学で日本に来られ、大学で習字の授業に参加することができました。そのとき茶道と華道の体験もできました。文化は本で勉強するより、実際に体験した方がいいと思います。このような経験を通じて、多くの方が日本文化への理解を深めることができるのではないのでしょうか。



INFORMATION

なでしこプラン 巡回診療・健康相談会



～体調が悪いけど、医療費の支払いが困難で病院に行けない～
～健康面が不安だけど、どこに相談すれば良いのかわからない～

そんな不安をお持ちの方に、無料の健康相談と、必要に応じて無料又は低額な料金での診療を行っています。世帯収入が生活保護基準の1.5倍以下を基準として、状況を確認の上、医療費の減免を行います。日本人、外国人、健康保険証の有、無しは問いません。経済的に困っている方や医療や福祉に関することで、誰に相談してよいかわからない方のお役に立てればと思います。お気軽に、ご利用ください。

日時：毎月第4日曜日
午後2時30分～午後3時30分
8月28日 9月25日 10月23日 11月27日
12月25日 1月22日 2月26日 3月25日

場所：大分県労働福祉会館「ソレイユ」2階



※事情により日程が変更となる場合がございます。事前にご確認をお願いします。

連絡先：大分県済生会日田病院

(TEL: 0973-24-1100)

担当者：医療相談員 井口・金子・横松・安井・小野



イベントの報告 『世界一周旅行報告会』

8月27日(土) 午後7時から、世界一周旅行報告会『夫婦ふたりで世界をトリップ!～ふたりっふ～』を開催いたしました。今までのイベントの中で一番人数の多い100名以上の方が参加してください、大盛況のうちに幕を閉じました。今回お話ししてくれたのは、大分市在住の藤川英祐さん・裕美さんご夫婦で、苦労話やおもしろ話、感動秘話や旅行のノウハウなどをお話ししてくれました。そのお話を上手く引き出し、まとめてくださったのがコーディネーターの桜井高志さん。今回のイベントは旅行や外国に興味のある方にはとても学びの多い内容だったと思います。また、旅行中に東日本大震災が発

生し、一時は帰国しようか悩んだけど、「旅は最後まで続けて、ブログもやめないで私達に笑顔を届けてください」と被災者の方からメッセージをいただいたエピソードも紹介してくれました。大好評のこのイベントを、11月23日(水・祝)の国際交流フェアでも開催する予定ですので、参加した方もしてない方も、ぜひお越しください!



おおいた国際交流プラザ

La Estación 33

発行日 平成23年9月30日(奇数月末発行予定)
編集・発行 (財)大分県文化スポーツ振興財団
国際交流課

〒870-0029 大分市高砂町2番33号

iichiko総合文化センター地下1階 iichiko Space Be in

開館時間：9：30～19：00

閉館日：日曜日・祝日及び第2・4月曜日とその週

の土曜日 ※ただし閉館日が祝祭日の場合はその翌日

TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052

E-mail: in@emo.or.jp Twitter: @oitaplaza

URL: http://www.oitaplaza.jp/